

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

会員だより

かつて、港都として賑わったまちに、再び、海の時代が訪れる

しちりながはまこう
～青森県七里長浜港～

かつては西廻り航路の拠点として賑わったまち。
多くの船が行き交う港は、いつの時代にも経済・文化・情報の発信地であり、津軽に新しい風を運んできた。

新世紀を間近に控えたいま、津軽の海の玄関港として日本海に新たな歴史を刻もうとしている。

鎌倉時代から室町期にかけて港町として栄え、数々の貿易を行っていたと伝えられる十三湊。当時の「廻船式目」では「三津七湊」の一つに数えられ、北国有数の港としてその反映ぶりが伝えられています。

この十三湖から続く長大な砂丘地帯の南側に位置する『七里長浜港』は、三方が海に囲まれた青森県の日本海側、津軽半島の付け根にあたる鱒ヶ沢町鳴沢地区に位置しています。ここから約4km南方には、藩政時代に上方と藩都弘前を結ぶ御用港として隆盛を極めた鱒ヶ沢湊があり、西廻り航路の拠点として重要な地位を築いていました。



写真-1 七里長浜港



写真-2 にっぽん丸

昭和58年8月に、津軽地域総合開発を誘導することを目的に、青森県で13番目の港湾として、『七里長浜港』の建設が着手されました。

以来、地元鱒ヶ沢町や木造町をはじめ、津軽28市町村の住民の熱い期待を受けながら建設が続けられてきた『七里長浜港』は、13年の歳月を経て、平成8年11月、5千トン級岸壁、翌年6月には2千トン級岸壁が完成し、津軽の海の玄関港としてその産声を上げました。

いま関係機関の皆様のご尽力により、新しく生まれ変わった『七里長浜港』は、今年、9月17日と25日の2回にわたり、商船三井客船(株)所有の豪華客船「にっぽん丸」が『七里

長浜港』へ寄港し、秋を彩る世界遺産・白神山地等への観光を予定されております。
 新たなロマンを求め、着実な躍進を遂げるべく、これからの『七里長浜港』に乞
 うご期待下さい。

文化が萌芽する、夢を発信する『日本海拠点館・あじがさわ』



写真-3 日本海拠点館・あじがさわ

港のまち、鱒ヶ沢にオープンした日本海拠点館・あじがさわ。ホール、国際会議室、環日本海情報コーナー、図書コーナーなどを備えた複合施設として、海をイメージに設計され、四季折々の海のように、使用目的に応じて、華やかに、繊細にその表情を変えていきます。

我が町における環日本海交流を尚一層推進するための象徴的な施設として、

また、このほど将来の国際貿易港を目指して産声を上げた『七里長浜港』とともに、国内外を問わず、多くの人々と様々な文化、情報が行き交い、世界に向けた新たな情報と時代の波を生み出すステージとして大いに活用されればと考えております。

未来の子供たちへの贈り物として・・・。

(注) かつて航海の安全を祈り、白八幡宮に奉納された船絵馬をデザインしている。

(青森県鱒ヶ沢町企画財政課港湾対策室 神)



写真-4 緞帳(注)

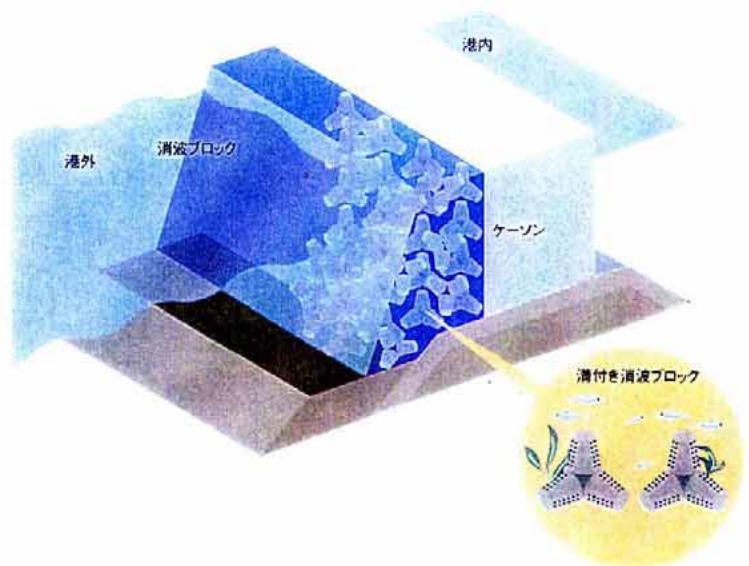
紹介

日本海の環境に対する取組 ～青森県深浦港のパイロット事業～

近年の自然環境保全への要請の高まりに対応して、港づくりにあっても環境との調和を図ることが求められています。

運輸省ではこのような状況をうけて、平成5年度に制度化した「新技術活用パイロット事業」として、青森県深浦港において防波堤に藻場を形成させる実証実験「イオン溶出型藻類増殖材化技術」を平成9年度より開始しました。

このパイロット事業は、将来の全国の防波堤、岸壁等の港湾施設が一大藻場と化し、海を浄化し、海生生物、魚類の格好のすみかとなる可能性を秘めた実験といえます。



イメージ図

以下にその実験概要を紹介します。

1. 実施者

第二港湾建設局青森港湾工事事務所(直轄)

2. 実施期間

平成9年3月～15年(11年以降はモニタリング期間)

3. 実施概要

海藻類や植物プランクトンに必要なリン、ケイ素、鉄等で作ったプレートを消波ブロックに装着することにより、イオンが海水に溶けだし藻類に必要な栄養を与え、藻類の成長を促進し、防波堤に藻場を形成します。

なお、藻場の形成状況、魚貝類の生息状況等モニタリングを実施します。

(第二港湾建設局青森港湾工事事務所)

お知らせ

「日本海にぎわい・交流海道推進協議会」第4回総会開催について

平成10年度の総会について、富山県新湊市において下記のとおり開催されることになりましたのでお知らせいたします。なお、正式な案内および詳細スケジュール等については、後日御連絡いたします。

1. 開催日時：平成10年8月25日(火)PM～ 総会、シンポジウム、懇親会
平成10年8月26日(水)AM～ 富山新港等視察

2. 開催場所：富山県新湊市(会場：新湊市中央文化会館)

(第一港湾建設局企画課 塩本)

編集後記

平成9年12月に創刊号が発行され、早くも第6号を我が二建が担当することになりました。二建はほとんどの港が太平洋岸に面しているため、我が職員にとって通信「にぎわい」は日本海側のみなさんの活躍やいろいろな港の姿を知るために貴重な情報源になっています。

今回第6号を発行するため、青森県鰺ヶ沢町と、青森港湾工事事務所にトピックス的なことはないかとお願ひし、記載のように鰺ヶ沢町の交流活動への取組と、直轄事務所における純技術的な取組の二つのニュースを皆さんにお伝えすることができました。

創刊号の編集後記に「情報の共有」と「結束力強化」が必要であり、「日本海の港町がにぎわいに満たされることを祈念する」と記されていましたが、太平洋岸に大半が集う二建の職員も”にぎわい・交流海道推進協議会”活動の更なる発展を期待しています。

みなさん、がんばりましょう。

(第6号 編集長 平形忠之)

編集

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第二港湾建設局 海域整備課内

TEL 045-211-7427

FAX 045-211-0204